

# 銭湯ブームの今 Vol.1

見えないものを描くことで伝わる空間の魅力 [1/2]

2019年5月24日 大島 萌

若い世代の中で、ひそかな銭湯ブームが起きている。テレビや雑誌での特集や、ウェブメディアへの掲載も増え、BEAMS が都内の銭湯とコラボした企画『銭湯のススメ』（2019年1月～3月）を行うなど、これまで高齢化の進んだイメージのあった銭湯に新たな風が吹いている。こうした動きの中で『銭湯図解』と呼ばれるイラストがネット上で話題となり、書籍も出版された。その著者でありイラストレーターの塩谷歩波氏に取材を行い、銭湯という場所が持つ新しい魅力を探りたい。



イラストレーター  
**塩谷 歩波** (えんや ほなみ)

1990年生まれ。高円寺の銭湯・小杉湯の番頭兼イラストレーター。銭湯再興プロジェクト主宰。早稲田大学大学院（建築専攻）修了。Web媒体の「ねとらぼ」で「えんやの銭湯イラストめぐり」、雑誌『旅の手帖』で「百年銭湯」を連載中。TBS『情熱大陸』などTVをはじめ数多くのメディアに出演。好きな水風呂の温度は16度。

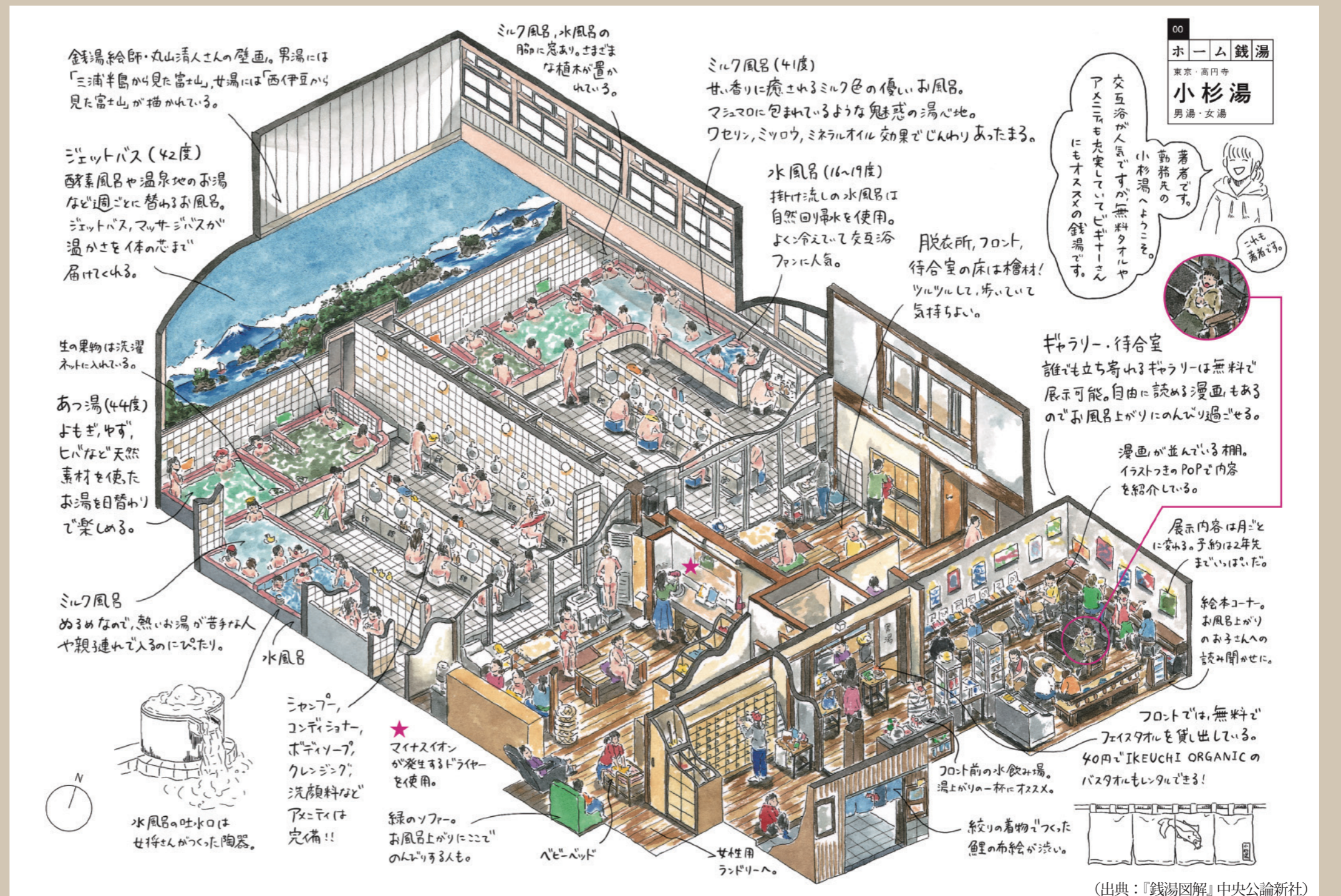
## 『銭湯図解』

塩谷歩波著（中央公論新社）  
都内を中心に24軒の銭湯の図解をカラーで掲載するとともに、見どころ、味わいどころをエッセイで紹介。



## ■見るほどに楽しくなる細密に描かれたイラスト

銭湯は裸になる場所故に外観以外の“写真を撮ること”は難しい。さらに、経営者、利用者の年齢層が高くネット上に発信されている情報も少ないため、前もって中の様子を知ることが簡単にはできない。表情豊かな温かいタッチで描かれた彼女のイラストは、今まではその場に行かなければ感じることはできなかった“銭湯空間”の魅力を発信するパワーに満ちている。アイソメトリック図法を使った立体感のあるわかりやすいイラストは建築出身ならではの技法だ。



(出典：『銭湯図解』中央公論新社)

# 銭湯ブームの今 Vol.1

見えないものを描くことで伝わる空間の魅力 [2/2]

## ■きっかけは自分の感じた魅力を伝えたいという気持ち

(インタビュー実施日：2019.3.25)

— 銭湯図解を描き始めたきっかけは？

もともと絵と建築が好きで、大学では芸術的、デザインの観点から建築を専攻し、学生時代から沢山絵を描いていました。卒業後は、建築家を目指し設計事務所に入所しましたが、仕事に没頭しすぎた結果、体調を崩し休職となりました。今思い返すと、そのときは早く成果を出したいと焦っていたように思います。思うように働くこともできず、ふさぎ込んでいたときに銭湯に行ってみたんです。そうしたら、ハマってしまって。血糖値がコントロールできなくなる病気だったのですが、交互浴で血行がよくなるのか、通っているうちに体調もよくなっていきました。銭湯イラストを描き始めたきっかけは、ちょうど同じ時期に休職していた友人を銭湯につれていきたいと思って、**どうやったら銭湯の気持ちいい空間を伝えられるだろうかと考え、イラストで表現してみました。**それを SNS に投稿したところ反響が大きく、**友人の輪を超えて、多くの人に拡散、共有されました。**そこから色々な場所の銭湯図解を SNS に投稿するようになりました。**ネット上で多くの人に作品を見てもらえるようになったことから、今の仕事や本の出版につながりました。**

— 小杉湯で働くようになったのはなぜ？

設計事務所に復職したのですが、体力が戻らず、当時よく通っていた小杉湯の若旦那に相談をしたところ、小杉湯への転職の誘いを受けました。小杉湯だったら、体調を治しながら働くということができることと、何より若旦那の**銭湯の価値を再定義している**という考えに**共感**し、転職したいと思いました。建築家志望の道を外れてしまうことに悩み、色々な人に相談しましたが「塩谷は建築家になりたいと思ってるかもしないけどなにより絵を描いているときが生き生きしている」と背中を押されて決断しました。今になってみる

と当時はプライドや親の期待に応えなきゃという思いに縛られ「建築家にならなきゃ」と思っていたのだなど感じます。建築家を目指したきっかけは絵を描くのが好きだったことで、いま『**“空間”を伝える“絵”の仕事**』をしていて、改めて自分の好きなこと（建築と絵）の原点に立ち返れたかなとはすごく思います。

— 今後やりたいことは？

原点は建築と絵が好きなので、それを続けていきたいと思っています。色々な建物の絵を描きたいと思っています、これからは、高円寺の街の絵を描いていこうと思っています。はじめての一人暮らしをこの街でして、2年ほど住んでいるのですが、とてもおもしろい街だと思います。**“この街にとってうちの店はこうありたい”**というのを店の人達が考えていて、**街全体が居場所みたいになっているのが高円寺で、その考え方がすごく好きだし、それはまだ目に見えていないものだからこそ絵に起こすことが大事**なんじゃないかと思っています。今後は街のことをやろうかなと考えています。



◀小杉湯の更衣室や浴室には塩谷氏のイラストによるお知らせや注意書きなどが掲示されている



▶パンフレットや入浴方法の解説なども手がける



▲小杉湯で行われる様々なイベントのポスターも塩谷氏によるもの  
◀入浴マナーポスターイラストがあることで誰が見てもわかりやすい

## ■“自分ごと”が共感され、波及していく

彼女の絵の出発点は“銭湯に行ったら気持ちのいい空間があり、体調も良くなった。それを友人にぜひとも勧めたい”といった日常の中での想いが形になったものだった。『銭湯図解』は自分が気に入った場所の魅力を伝えたいという塩谷氏のまっすぐな気持ちが表現されており、多くの人の心を掴んだ。**自分自身の目線で発信された“自分ごと”がそれを見た人々の中で“自分ごと”として受け止められ、共感の連鎖がブームにつながった。**

## ■見えないリアルの魅力を発信

彼女の絵のおもしろさは**見えづらいものを見えるようにしている**ところにある。現実では見ることでできない俯瞰した視点により空間を描き出し、表情豊かに描かれた人々一人一人にストーリーを感じさせる。図面やCG パースにはあまり見られない細密に描かれた人物の表現によってこの場所での**人々の振る舞いが容易に想像できる。**

服を脱ぐという特性上、浴室や脱衣室の人々の様子が写真に収められることは無いが『銭湯図解』はその様子を知るには十分だ。男湯(女湯)はどのようになっているのだろう？という興味は誰もが思うことだが、その答

えが『銭湯図解』にはある。

インターネットや SNS が盛んな今、初めて訪れる場所も、訪れたことのある人の発信する情報から事前にある程度のイメージを掴むことができる。その中で、情報の少ない銭湯界に出現したリアルよりもリアリティを持った彼女のイラストは、**新鮮なもの、新しい興味対象として若い世代に受け止められ、瞬く間に話題となったのだろう。**

次号では塩谷氏に伺った話の内容をもとに銭湯が今、どのような場所としての価値を提供しているのか掘り下げていく。

**“momo channel”**

平成生まれの『昭和萌え』

銭湯、純喫茶、フィルムカメラ、ネオ横丁、古民家、カセットテープ…若い層を中心に、『レトロブーム』は数年前から起きている。何もかもがスマートに進化していく中で、逆に「ちょっと不便」や「わざわざ使う」を特別なものに感じ、体験のように楽しんでいるのだ。イベント感覚なので日常に変化は生まれても、その後の生活が変わるわけではない。普段は便利にラクしたいけど、たまには「エモい」面倒くささもいいよね、といった調子で、都合よく『昭和萌え』を楽しんでいる。これが「継承」になっているかどうかは疑問だが、興味を持つ人が増えるだけでも良いのかもかもしれない。